

図解：一次産品問題

作成：佐藤由利江・石崎えり子（統計調査部）

アフリカ諸国の輸出における

〔全輸出額 1987 年
主要品目比率 (%) 1984/85 年〕

コーヒー	35.4
木材	23.6
綿	14.5

原油	83.9
木材	6.2
マンガン	5.7

原油	76.2
石油製品	4.6
コーヒー	3.5

綿	69.0
綿織物	24.0
原皮	1.0

落花生製品	24.8
植物性油	21.0
ダイヤモンド	9.3

綿	31.5
ココア	26.8
パーム製品	8.3

クロープ	80.0
バニラ	15.0

ココア	66.1
アルミニウム	5.7
鮮魚	4.0

ダイヤモンド	78.0
銅, ニッケル	9.0
肉	7.0

原油	88.5
石油製品	3.9
木材	1.9

非鉄鉱	91.0
コーヒー	2.0
鉄 鉱	2.0

綿	46.7
家畜	12.8
落花生	12.6

ココア	32.0
コーヒー	24.6
木材	7.8

採油用種子, ナット類	64.3
鮮魚	5.0
綿	4.7

コーヒー	84.0
茶	6.3

砂糖	15.0
衣料製品	13.0
石油製品	9.0

コーヒー	27.3
茶	24.7
石油製品	16.9

コーヒー	28.4
ココア	21.9
木材	9.8

ココア	48.0
木材	28.0
タバコ	9.0

ダイヤモンド	41.0
羊毛	11.0
モヘア	6.0

鮮魚	54.8
魚缶詰	21.1
粗 鉱	8.6

コーヒー	62.7
原皮	13.3
石油製品	8.5

鉄 鉱	63.1
ゴム	19.0
木材	6.5

一次産品への依存度

— マダガスカル (4億ドル) —

コーヒー	39.0
クローブ	28.5
鮮魚	7.3

— ルワンダ (2億ドル) —

コーヒー	42.9
錫	9.4
茶	4.8

— タンザニア*** (4億ドル) —

コーヒー	39.0
綿	12.0
茶	6.0

— マラウイ (3億ドル) —

タバコ	48.0
茶	23.8
砂糖	8.3

— サントメ・プリンシペ* (900万ドル) —

鮮魚	75.0
採油用種子, ナット類	14.0

— トーゴ (4億ドル) —

燐 鉍	48.9
ココア	16.0
綿	11.3

— マリ (3億ドル) —

綿	56.0
家畜	29.0
落花生	2.7

— セネガル (6億ドル) —

鮮魚	14.4
落花生	13.4
燐 鉍	11.6

— ウガンダ* (4億ドル) —

コーヒー	95.0
綿	2.0
原皮	1.0

— モーリタニア (5億ドル) —

鉄 鉍	44.2
鮮魚	39.6
家畜	10.0

— セイシェル (1億ドル) —

石油製品	80.6
鮮魚	5.7
採油用種子, ナット類	4.1

— ザイール (16億ドル) —

銅	44.7
石油製品	22.3
コーヒー	19.0

— モーリシャス (12億ドル) —

砂糖	46.7
衣料製品	29.3
茶	3.3

— シエラレオネ** (1億ドル) —

ダイヤモンド	35.9
非鉄鉍	26.3
ココア	17.6

— ザンビア (9億ドル) —

銅	87.7
亜鉛	1.9
貴石	0.7

— モザンビーク (—) —

鮮魚	36.0
果実, ナット類	19.4
綿	7.7

— ソマリア (1億ドル) —

家畜	79.4
果実, ナット類	17.9
鮮魚	1.9

— ジンバブエ (14億ドル) —

タバコ	22.9
銑鉄	12.1
綿	9.5

— ニジェール (3億ドル) —

ウラニウム	80.8
家畜	14.2

— スーダン (5億ドル) —

綿 綿	47.7
採油用種子, ナット類	14.8
家畜	14.1

— ナイジェリア (74億ドル) —

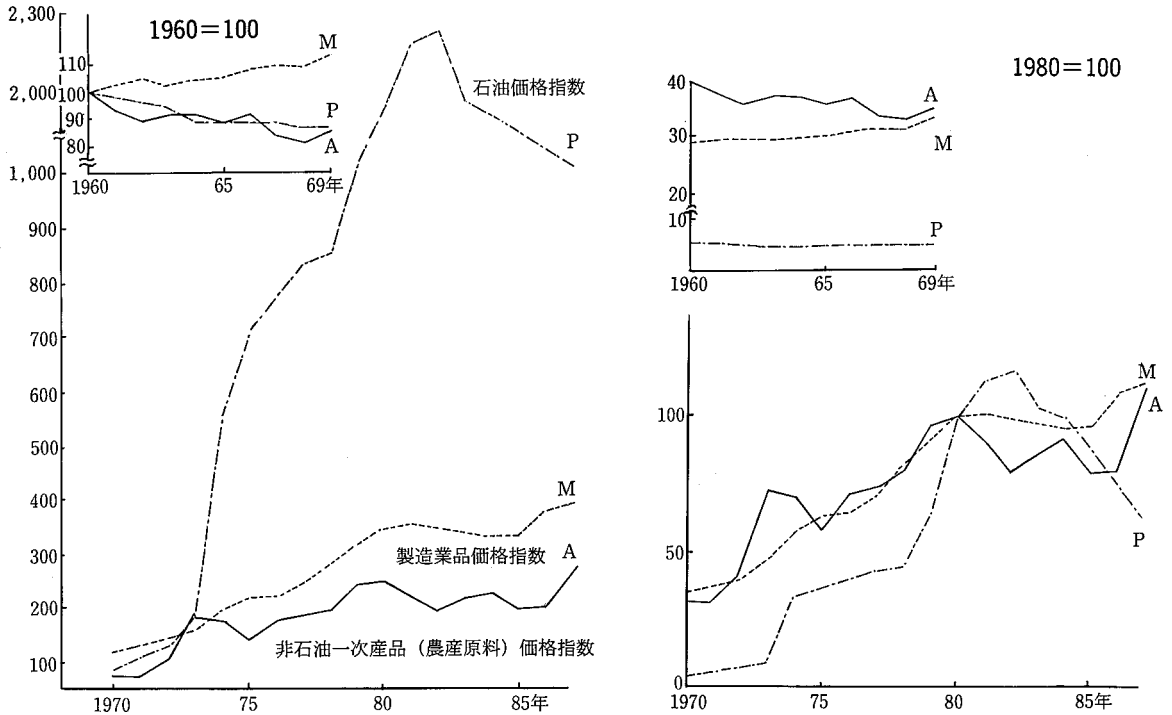
原油	90.1
ココア	2.2
石油製品	0.8

— スワジランド* (5億ドル) —

砂糖	36.0
パルプ	19.0
無機化学品	11.0

(注) *1982/83年の比率。
**1986年の輸出額。
***1983/84年の比率。
(出所) Africa Recovery,
October 1989.
『世界開発報告』1989年。

石油、非石油一次産品、製造業品価格の推移 (異なる基準年次による印象の違い)

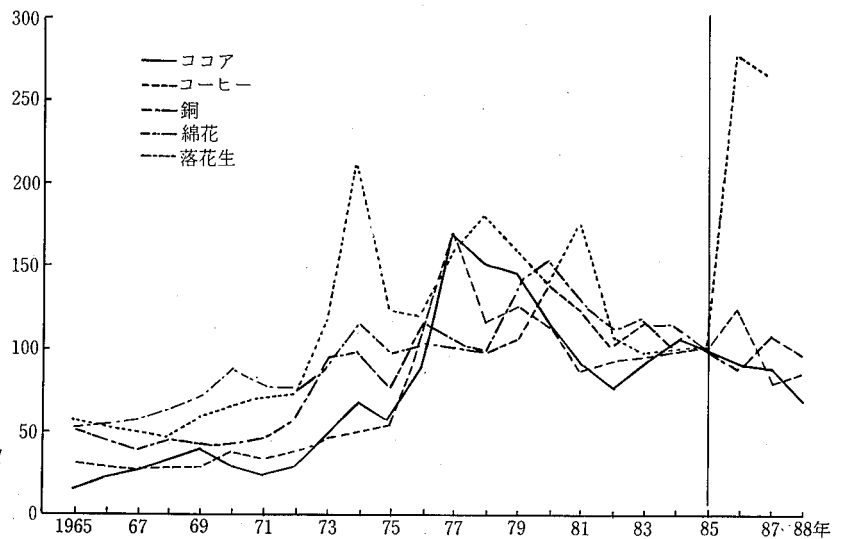


(注) A = 非石油一次産品価格 (一次産品輸出国30ヵ国の中の綿、羊毛、天然ゴム、皮革、
 ジュート、サイザルの農産原料の価格指数)。
 P = 石油価格 (アラビアン・ライト政府販売価格指数)。
 M = 製造業品価格 (先進工業国5ヵ国の発展途上国への製造業者輸出価格指数, SITC 5~8)。

(出所) 平島成望編『一次産品問題の新展開』(研究双書 383) アジア経済研究所 1989年。

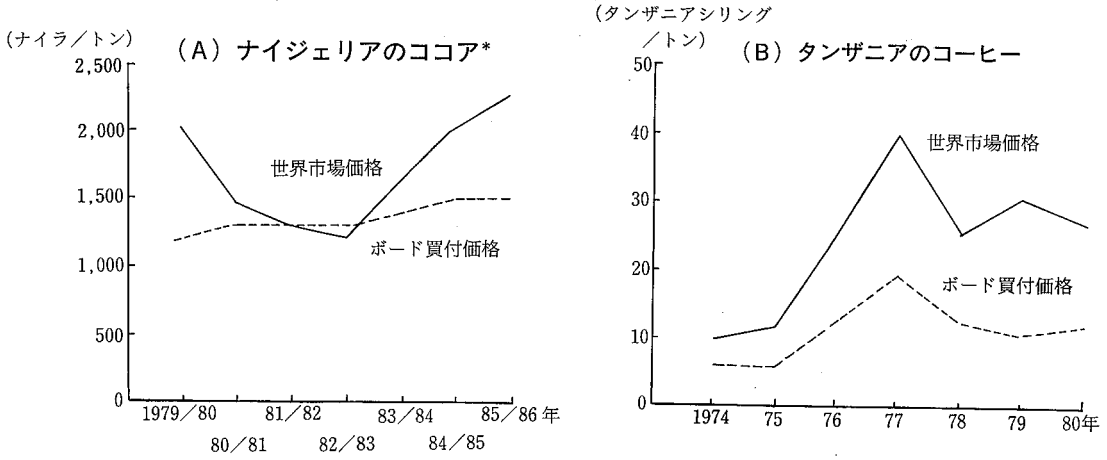
主要一次産品の 国際価格指数

(1985=100)



(出所) IMF, *International Financial Statistics* 1989.

主要輸出作物のマーケティング・ボード買付価格と世界市場価格の推移



(注) * ここでは世界市場価格は現地通貨表示なので、通貨切下げの影響で上昇している。

(出所) (A): 林晃史編『アフリカ農村社会の再編成』(研究双書 385) アジア経済研究所 1989年; (B): Issue, Vol. XIV 1985.

主要国際商品機関一覧

(1990年1月1日現在)

名称	設立年	事務局所在地	加盟国数	規制方法
国際コーヒー機関	1962	ロンドン	輸出国46 輸入国19	輸出割当等を停止中
国際ココア機関	1972	ロンドン	輸出国18 輸入国22	緩衝在庫方式(主) 凍結制度(従)
国際天然ゴム機関	1979	クアラルンプール	輸出国3 輸入国19	緩衝在庫方式
国際すず理事会	1956	ロンドン	生産国6 消費国16	緩衝在庫方式・輸出統制
国際小麦理事会	1949	ロンドン	輸出国10 輸入国29	多角契約方式*
国際砂糖機関	1968	ロンドン	輸出国36 輸入国9	輸出割当方式*
国際ジュート機関	1984	ダッカ	輸出国5 輸入国26	
国際熱帯木材機関	1987	横浜	生産国19 消費国25	
国際オリーブ油理事会	1959	マドリッド	主要輸入国2** EEC, 主要生産国4	

(注) *現在は採用されていない。 **1986年現在の数。

(出所) IMF, *Directory of Regional Economic Organizations and International Commodity and Development Organizations*; 外務省資料。